



「戦争法の廃止」を求める19日行動!

食べること、生活を守ることを優先すべき

戦争法の廃止を求める茨城県民連絡会は、19日(水)水戸駅北口において、岸田内閣が進める「戦争する国づくり」などに抗議の声を上げました。

田中重博会長は「岸田政権は軍事大国化と憲法改悪を目指していることが明らかになりつつある。敵基地攻撃能力などともない大軍拡の方向が目指されている。憲法9条を持つ国として、平和国家として紛争を戦争にしない努力が求められている。統一協会と自民党の関係について徹底的に解明し膿



を出さなければならない」などと訴えました。

茨城労連、県原水協、茨厚労、県平和委員会から木村泉代表理事など20人が参加しました。茨厚労の藤田周さんは「戦争に使うお金はもったいない。戦争をしている場合ではない」と語りかけました。政党からは日本共産党県議会議員の江尻加那さんが駆けつけ、物価高で苦しむお母さんの声を紹介しながら「食べること、生活を守ることに税金を使うべき」とスピーチ。アンパイヤマン(審判マン)に「戦争アウト」と3回コールしていただき、集会を閉じました。司会は県平和委員会の篠原事務局長でした。



5人で頑張ってます!

「新聞意見広告制作委員会」は5人のスタッフで!

10月17日の
会議風景

制作委員は安本真理子さん(水戸)、中庭由美子さん(水戸)、増山みゆきさん(石岡)と事務局から神原要事務局次長、篠原睦事務局長の5人。第1回目の打ち合わせは、9月26日(月)午後6時からオンラインによって行いました。「秋のチラシ」制作委員会も同じメンバーです。

ロシアによるウクライナ侵略戦争が長期化し、ロシア軍による無差別な攻撃、虐殺、拷問、レイプ等が報じられています。またプーチン大統領による再三にわたる核兵器先制使用による威嚇、原子力施設占拠によって「核抑止」が破綻したことはあきらかです。「戦争ノー」「核兵器ノー」を2022年のテーマとして取り上げることにしました。

2回目は10月17日(月)午後6時、県平和委員会事務所に集合。増山さんと中庭さんは「対面」するのは初めて。オンライン会議では生まれない雑談に花が咲きました。「こんなに物価高なのに、国葬に何十億も使って」「自民党と旧統一協会の癒着は底知れない」「病院は、電気代の高騰でボーナスが出ないかもしれない」「食料品の容量が少なくなって、ワンパックでは満腹にならない」etc.よもやま

話は会議の潤滑油です。

話は横道にそれながらも、広告中央には「アンパイヤ(審判)マン」の写真を使うというアイデアが生まれました。ロシアによるウクライナ侵略「抗議集会」には何度となく「アンパイヤマン」も駆けつけ、集会の終わりには「戦争アウト」とシュプレヒコールをリードしてくれました。安倍・菅内閣、岸田内閣の政策は「アウト」ばかりです。「戦争ノー」「核兵器ノー」「原発ノー」を、表現することにしました。

その後、委員会は「アンパイヤマン」の連絡先を調べ、カメラマンと撮影場所の手配、モデルとの日程調整、次回会議日程などを確認し午後7時過ぎ終了しました。





講演会 「徹底追及 統一協会！」

～ 三浦 誠さん(赤旗社会部長) 熱く語る ～

茨城革新懇は10月14日(金)午後2時から、県立青少年会館において「徹底追及 統一協会」をテーマに講演会を開催しました。講師は三浦誠「しんぶん赤旗」社会部長(54歳 山口県出身)。平日の午後にもかかわらず70人余が聴講しました。

自民党と反社会的カルト集団「世界基督教統一神霊協会」(現・世界平和統一家庭連合)との底なしの癒着ぶりなどが連日報道されています。全国弁連(全国霊感商法対策弁護士連絡会)が11日、文科省や法相などに対し「解散請求」を申し入れており、さらに国民的な関心が高まっています。茨城県内には、日立・水戸・土浦の3か所に統一協会の施設があります。

以下、講演の概要を報告します。



しんぶん赤旗は、統一「協」会という名称を使っている。編集局に「教」会ではないかという問い合わせがあるが、その都度「統一神霊協会」が正式名であり、キリスト教とはまったく関係がないと説明している。

統一協会は、信者をマインドコントロールし「献金」を収奪するカルト集団であり、「反共」で自民党とタッグを組んだ謀略集団。1954年韓国で設立され、1959年日本に「上陸」。64年、宗教法人として認可された。開祖は文鮮明(ムン・ソンミョン 2012年死去)、現総裁は妻の韓鶴子(ハン・ハクチャ)。61年にクーデターで生まれた朴正熙(パク・チョンヒ)軍事政権のもとで「KCIA(韓国中央情報部)」が統一協会を「組織」し、「政治的用具」として利用してきた。

統一協会は、「祝福」と称した信者同士の集団結婚と「サタンの所有を神の所有に返還する」＝「万物復帰」(霊感商法)という「異様な教義」を持っている。最近、信者からの献金を増やすために、430代前の先祖が苦しんでいる、縄文時代の先祖まで遡って供養せよ、と金を搾り取っている。これだけでも毎月20億円以上を収奪している。

「国際勝共連合」は、統一協会と同じく文鮮明を創始者として1968年に結成された。「勝共」とは単なる「反共」ではなく、「第3次世界大戦に勝利して共産主義世界を壊滅させ、……理想世界を実現しなければならない」(原理講論)、「共産主義をこの地球上から完全に一掃する」ことが目的。選挙の汚れ仕事も担当する謀略団体である。日本で岸信介元首相、笹川良一(右翼運動家)、児玉誉士夫(右翼運動家)が発起人となって発足した。

信者数は10万人と言っているが、実質は4万人程度。自民党とは「反共」で一致する。響き合っている、と言える。安倍元首相は広告塔となり、そして利用してきた。そのため被害が拡大した。自民党には広告塔となったことを反省してもらいたい。

先におこなわれた沖縄県知事選に出馬した自公推薦の佐喜真淳候補の第一声は「統一協会と関係を断ちます」だった。こんな人を推すのか、県知事にするのか。自公政治と政権は劣化している。

この間、しんぶん赤旗は、「政界癒着の追及」「名称変更問題」「信者二世の救済」などについて報道してきた。安倍元首相を銃撃した山上徹也容疑者の母親は信者となり1億円を献金していたため家族は経済的に苦しんだなど「信者二世」の被害は深刻。信者二世を守るのには社会の責任であり、政治の責任だ。

なぜ赤旗が統一協会と闘えるのか。それは「基本的人権を制限、抑圧するあらゆる企てを排除」と党綱領にあるように、根っこがしっかりしているから闘うことができる。

支持者のみなさんや統一協会を脱退した元信者から様々な情報などが寄せられていることがスクープの源泉となっている。信頼関係があるからこそ、聞くことができる。今後も統一協会と政界の癒着を解明せよ、解散せよという運動を広げてもらいたい。(文責:篠原)

